

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200764		
法人名	悠馬エンタープライズ有限会社		
事業所名	グループホームらんらん倶楽部		
所在地	埼玉県児玉郡神川町熊野堂2578		
自己評価作成日	平成23年9月23日	評価結果市町村受理日	平成23年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭や畑が広く入所者様がそれぞれ自分の庭を持っている。季節毎に花を植え楽しんでいる。散歩は天気の良い日は欠かさず実行していて気分転換になっている。畑では野菜を育て収穫した物は食事の時に提供したり、ご家族様におすそ分けもしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りを田畑に囲まれた日当りの好い場所に立てられた当ホームは、2ユニット(18人)で、A・B棟の行き来が出来る構造となっている。日当りが好く、窓から木々や草花を通じて季節の移り変わりを感じる事が出来、テラスを利用して畑の収穫物を乾燥したりしている。入居者は個々に花壇を持っていて、自分好みの花を育てている。共有の畑で育てている四季折々の収穫物は、毎日の食卓に上っている。又、家族に収穫物をおすそ分けする時もある。介護計画の内容は全職員で共有し、毎日のケアに活かしている。残存機能を活かす為、生活リハビリ、アクティビティプログラムを作り、よりよい日常生活が送れるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	少しずつではあるが職員間に浸透していると思われる。自分の父親なら、自分の母親ならという言葉が朝礼で多く話される様になってきている。	入居者を職員個々の両親だと思いついて対応、介助している。入居者の経験や尊厳等を守る言葉使いで声掛けし、気持ちよく過ごしてもらえるよう努力している。しかし、地域密着型サービスとしての理念の文言はうたわれていない。	今後、管理者や職員で話合いの場を設け、地域密着型サービスに合った理念を考え、実践することが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と多く関われる様に努力している。毎月の誕生日会には地元のボランティアさんに来て戴いたり、保育園や小、中学校とも連携し体験学習を取り入れている。地域の行事にはなるべく参加している。	クリスマス会に地元の保育園児や小・中学生が訪問し、歌や遊戯を見せてくれる。又、保育園や小・中学校の運動会に招待され、見学に行っている。ハーモニカ、踊り等のボランティア訪問もあり、地元のコスモス祭りに参加し、楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事等には区長さんや民生委員さんを通じて地域の方々に来所して戴き入所者さんに関わることで認知症の方の理解を戴いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は偶数月に必ず開催しご家族様、行政、地域の方に参加して戴き、近況報告をし提案や意見を伺いサービス向上に繋げている。	2ヶ月に一度包括支援センター、民生委員、家族、管理者、職員等の関係者で開き、グループホームとはどんな所か、介護保険の状況報告、ホームの行事報告をしている。推進委員で親睦を兼ねて食事をする事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入、退所の連絡やケアマネ会議に出席し情報交換をし関われる様にしている。	月一回第三水曜日に福祉施設関係者、福祉事業所関係者が参加して情報交換を行っている。情報を持ち帰り、運営やサービスに反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険があると思われる以外は身体拘束はしていない。職員会議等で話し合っている。玄関の中扉のみ離棟防止の為、施錠している。	玄関前が広い通りで車の往来も激しく、交通事故の心配がある為、中扉のみ施錠している。A棟・B棟の行き来は自由に出来るようになってきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼や職員会議等を通して全員が認識出来るようにしている。新聞の切り抜きやTV等で話題になった事は全員で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政からのパンフレット等で成年後見制度のしくみ等を理解し必要があれば活用して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時にホームのパンフレットを渡し詳細を説明した上でご家族様やご本人の要望に応えられるようにしている。双方の納得の上、契約している。長期入院時は退所手続きをしてご家族様の負担を軽減している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でも意見を聞いている。面会時には近況を報告し話し易い環境を整えている。玄関に意見箱を設置しどなたでも気軽に質問や提案が出来るようにしている。	玄関に意見箱を設置しているが、要望等は殆ど出ない。家族の訪問時、帰り際に近況等を伝えている。個人的な意見や要望が時々出され、反映出来るものは直ぐに見直している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会議や朝礼等で其の都度受け入れている。改善できる点は積極的に実行している。	業務に関する職員の意見や提案は、都度検討し、改善出来るものは直ちに改善している。運営に関する改善はなかなか実行に繋がらないでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト制になっている為、各自に希望休等を聞き働きやすい環境にしている。又、本人の努力により昇給や賞与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣での介護講習等は積極的に参加できるよう配慮している。又、入所者様の状態を全員が理解しケアに対し疑問や不安があるときは時間を作り改善している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループと連携し行事に参加させて戴いたり情報の交換をしサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会しご本人の訴えに傾聴しホームの生活が安心出来る様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心してホームに大切な身内を預けられる様に不安や悩みをじっくり聞き信頼関係が築ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に出来るだけ多くの情報を収集しどんな支援が必要であるかカンファレンスを開きサービスの統一を図り自立支援を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げられている様に、家族と思って接している。昔話をしたり一緒に外出したりお互いが楽しく暮らせる様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大切な方をお預かりしている事を常に思い面会時には近況報告をし家族だけの時間も構築している。身体状況に応じてケアの方針等も説明し理解して載っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に家族や友人の写真を飾ったり思い出の品々を置き関係が途切れない様に努めている。面会や外泊も自由にして戴き家族関係がスムーズに行くよう支援している。	在宅で使用していたものを持参してもらい、各居室に使いやすいよう整理してある。訪問の理美容を利用したり、月二回の往診や衣類の買物は近くのショッピングセンターに職員と一緒に掛けている。友達の訪問や電話、外泊外食は自由としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や散歩、レクを通して利用者同士が自然に関われる様、援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されて他の施設に移られても、折に触れ訪問したり手紙を書いたりして関係が途切れない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思は尊重しているが孤立しない様に配慮している。将棋の好きな方が将棋教室に通える様になり本人はもちろん家族も喜ばれている。外食希望者には職員が対応し実施している。	将棋の好きな入居者は職員の送迎で月二回将棋教室に通い、近隣の方とコミュニケーションをとっている。普通食がとれる外食希望者は、職員対応で好きなものを食べてもらっている。又、お土産として持ち帰ったりもする。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報である程度は把握できるが、毎日の暮らしの中でさりげない会話からその方の生きざまや癖等を理解するように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りで体調は把握している。出来る事はなるべくして戴き身体機能が低下しない様ケアプランにも組み入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には3ヶ月に一度ケアプランを作成している。職員会議や時間を調節し問題点は早めに解決している。家族にもありのままをお話して理解を戴いている。モニタリングは毎月出来ないでいる。	担当者を中心に3ヶ月に一度カンファレンスを行っている。他の職員の意見も踏まえ、計画作成担当者が介護計画を作成し、家族が訪問した時に確認してもらっている。全職員で介護計画を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在は介護記録も見直され利用者の発語等も随分拾える様になり情報が伝わり安くなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の出番を多く設ける様にしている。うどん打ちが得意な方が不穏になっている時は気分転換の為にうどん打ちをしたり、帰宅願望の方とは一緒に歩いて気持が安定する様なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園、小中学校と連携し利用者様 が子供達と触れ合い楽しむ事が出来るよう に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医について説明しご家族様了 解のもと2週間に1度往診して戴いている。 中にはかかりつけ医を変更せず定期的に受 診されている方もいる。歯医者は訪問歯科 をお願いしている。健康管理には充分配慮 している。	提携医が二週間に一度定期的に往診している。 訪問歯科を利用している入居者もいるが、他の診 療科受診時は家族対応をお願いしている。家族対 応が出来ない場合は職員が対応し、結果につい ては家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	利用者の体調に変化が見られた時は非常 勤のナースに相談し指示を貰っている。必要 があれば訪問看護も依頼出来るように なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	日頃から近隣の病院には出向きより良い関 係が構築できる様に努めている。利用者が 入院した場合は出来る限りの情報を提供し ている。又、面会にも多く行き状態を把握し ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 のできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	ターミナルケアについては契約時に説明し ている。本人や家族の希望があれば医師や ナース、家人との連携で受け入れる。	以前に看取りケアをした事はあるが、主治医 から意見書を出してもらい、主治医、看護 師、家族、ホーム側等関係者で話し合いの場 を持ち、その都度対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し職員は自分がどう行動 するか理解している。定期的な講習は特に 設けてないが機会を作りしたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	火災に対して避難訓練を消防署、地域の方 に協力して戴き実行している。計画書に従 い職員の役割を決めている。実施後は反省 会も行っている。	年二回の避難訓練は実施しているが、夜間 を想定した訓練は出来ていない。現在、火災 相談計画を立てている。	火災は日中だけとは限らない為、夜 間を想定した訓練の実施が期待され る。又、連絡体制、避難ルート、避難 場所の確立や、開始から避難終了ま での時間確認等が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時は特に注意している。認知症状も一人一人違う為、声掛けには人格を損ねない様に配慮している。朝礼や会議等で問題点を取り上げ話し合っている。	入浴や排泄時の声掛けを拒否する入居者には、時間を変えたり対応する職員を変え、人格を損ねないよう支援している。介助方法についても提案出してもらい、検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の献立も時々利用者様に聞いたりして取り入れている。レクも好きな事が選べる様に全員が同じ事でなく少人数でいるんなことに挑戦し意欲低下を防止している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様から希望があれば添える様にしている。自由時間も作り強制はしない。散歩もコースを分けてその方のペースにあわせ行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日身につける衣類は一緒に選び職員が強制しない。髭や髪、爪等は常に清潔に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲が低下しない様に献立にも気を付けている。食事は全て職員が調理し温かい物が提供できる様にしている。利用者様にも配膳や下膳、食器洗い等出来る事はして戴き、役割意識を持って戴いている。	食材は職員が買出し、畑の収穫物を取り入れた献立をその都度決めている。入居者の個性を生かし、下ごしらえや下膳等、出来る事は手伝ってもらっている。うどんや煮ぼうとう、饅頭作り等を楽しんでいる。外食も取入れ、気分転換を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量などは毎日把握できる様に表にしてある。飲み込みが悪い方にはトロミをつけたり状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアはしている。声掛けし自分で出来る方は見守り、必要と思われれば介助もする。義歯は夕食後洗浄剤を用いホームで管理し翌朝綺麗にしてお渡ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が軽減出来る様に、オムツ使用の方であっても定期的に声掛けトイレ誘導している。尿意が何とか保たれている方であれば日中は布パンツに切り換えて自立支援を目指している。	入居時にオムツやリハビリパンツを使用していた入居者の排泄パターンを把握し、定期的に声掛けした結果、日中は布パンツで過ごせるようになってきている。自力で排泄している入居者には事後の排泄確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	通じの有無は排泄表で把握できる。水分不足にならない様、制限のない方は訴えがあれば水分補給している。食事にも繊維の多い物を取り入れ便秘解消につなげている。体操や散歩も日課になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴日をとっている。自立されている方は大きい風呂に入り、介助が必要な方は個浴で安全に行っている。重症化している方は機械浴もない為身体負担も大きい。双方の負担軽減の為シャワーキャリー等を購入し個々にあわせている。	基本的には週三日の入浴となっているが、季節や失禁の度合い等により、臨機応変に対応している。季節の柚子湯や菖蒲湯等でゆっくり入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないで夜間は安眠出来るように援助している。日中は疲れない程度に身体を動かし夜間の居室は明る過ぎない様に配慮したり夜勤者は利用者が安眠出来る様定期的に巡視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別薬時表があり、いつでも職員が確認できる状態になっている。服薬時は名前を確認して手渡ししている。飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どの利用者様は何ができるかを会議等で話あっている。出来る事はお願いし、して戴いた事に対し感謝の言葉も忘れない。得意な事は積極的にすすめ気分転換が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やテラスでの外気浴は毎日の様に行っている。季節の花を見に出かけたり、地域の祭りや運動会等も見学している。今年はお寿司屋にランチを食べに出かけたり、家族やボラさんに協力願隣町のブルーベリー狩りに出かけ大変好評でした。	日常的に近くの公園やテラスで外気浴をしている。牡丹、桜、コスモス等季節に応じた花見におやつを持って出掛けている。入居者の好みの物を食べに出掛けたり、招待された地域の祭りや運動会の見学に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に執着している方は家人と相談し財布に小銭を入れて不穩防止の為に自己管理して載けてます。必要あらば買物と一緒に出かけ満足出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家人に電話の訴えがあれば夜中でない限りしている。又、家人からの電話は取り次ぎ話す機会を設けている。2ヶ月に1度発行しているホームの新聞や写真を郵送し情報を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは常に居心地の良い場所として整理整頓を心掛け快適に過ごせるよう温度調節もしている。ホール内には気軽に腰かけゆっくり出来るようにソファが置いてある。和室や壁面には季節を感じる制作物を利用者様と職員が共同制作し掲げ工夫している。	ホール内は整理整頓され、清潔感もある。ゆったりと腰を下ろせるソファを置き、畳敷きの居間も用意し、コタツも設置してある。側面には入居者と職員で制作した季節の工作品を展示してある。窓から庭先に咲いている花々が見え、広々とした空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスに出たり中庭を歩いたり、草むしりが好きな方には一緒に草取りをしたり自由に過ごせる様に声掛けしたり誘導している。ホール内のソファは一人のんびり休む事もでき、仲間とおしゃべり出来る様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に戸惑わない様、自宅で使い慣れた物を置いて載っている。又、家族の写真や思い出の品々もおいて本人が安心出来る様にしている。	ホームではペット、空調、カーテン等を用意し、入居時に「今迄使用していた使い慣れたものを持ってきてほしい」と説明している。持ち込まれた整理タンス、写真、テレビ、椅子等は、使いやすいよう整理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	至る所に手摺りが取り付けられている。居室にはその方の名前が貼られそれぞれの場所も明確に表示してある。床はバリアフリーになっていて車椅子の移動も安全に行われ自立心が養われている。		